

デジタルハリウッド大学

2024 年度 一般選抜 A 方式

国語 [60 分]

【 注 意 事 項 】

1. 試験監督の指示があるまでは、問題冊子は開かないこと。
2. 試験監督から指示があったら、解答用紙に氏名・受験番号を正確に記入し、受験番号マーク欄にも受験番号を正確にマークすること。
3. 試験開始の合図後、この問題冊子を開き、36 ページ(白紙ページ含む)揃っているか確認すること。
4. 乱丁、落丁、印刷不鮮明などがある場合は、手を挙げて試験監督に知らせること。
5. 解答は、すべて別紙の解答用紙の解答欄にマークすること。
6. 試験開始から終了までの間は、試験教室から退出できません。
7. 不正行為を行った場合は、その時点で受験の中止と退室を指示され、同日受験したすべての科目の成績が原則無効となる。
8. 解答用紙は試験終了後、回収される。問題冊子は持ち帰っても良い。

これは2ページ目です。
次のページから問題が始まります。

第一問 次の小説の一節を読んで、後の設問に答えなさい。

イギリスの中学生ミアは、生活能力がなく育児放棄をしている母親の代わりに幼い弟の面倒を見ながら、経済的にも余裕のない生活をしている。音楽部に所属しているウィルからラッパーのケイ・テンペストのラップのリリック（歌詞）を渡され、リリックを書いてほしいと頼まれていた。断り続けていたある日、友人のレイラから話しかけられる。

「ケイ・テンペストの動画、見る？」

ミアが校庭の楡（にれ）の木の下でベンチに座って本を読んでいると、レイラが話しかけてきた。

「有名になってから（注）ノンバイナリーを（注）カムアウトして名前を変えるなんて勇氣ある。ケイトだった頃から、私たちは人と違っていていいんだって一貫して歌ってきたから、自分もそうしたんだろうね。なんかこの人、すごく格好いいと思う」

レイラはそう言って、ミアにイヤフォンを渡そうとしていた。

ミアはそのころんとした白いイヤフォンを耳に入れてみた。レイラがYouTubeの動画を再生し、iPhoneをミアに渡す。

ゆるいウェーブのかかった量の多い長い金髪と空色の瞳が印象的な女性が映っていた。ルックスを見る限りでは、そんなに「違う人」という気はしない。フミコ風に言えば、「雑木林の木々」の中に埋もれてしまいそうな、どこにでもいる感じの人だ。

「これが、ケイ・テンペストって人？」

ミアが尋ねると、レイラが答えた。

「これはケイト時代の動画。いまは少年っぽいショートカットになってて、すごくかわいい」

ケイト時代のケイ・テンペストは、キーボードの演奏に合わせて詩を朗読していた。詩の朗読、にしかミアには見えなかった。ミアがイメージするラッパーみたいに体を揺すってダンスしているわけでもなければ、前かがみで観衆に^(注3)ボーストしているような、挑戦的な感じもない。静かで、淡々としたパフォーマンスだった。

私の国がバラバラになっていく、何もかもすべてが失敗だらけの茶番^(注4)になっていく、お金の心配や仕事や何もかもに潰されそうになりながら、いまにも崩れ落ちてしまいそうだけど友だちみんなに笑いかける、部屋のベッドに寝転がって眠れない人、泣きながら駅に立っている人……。

リリックの内容が断片的に耳から飛び込んできて、ミアがよく知っている風景が次々と頭の中に立ち上がった。

「ビューティフル……」

なぜかミアの瞳に温かい水がたまってきた。

「でしょ？ この人は私もちよつとすごいと思う。こんなラップ、聞いたことがない。テレビとかに出てないから、私もウィルがリリックを持つてくるまで知らなかったんだけど」

「ありがとう」

曲が終わると、ミアはイヤフォンを外し、レイラに返そうとした。

「もう一曲、聞いてみる？」

レイラはそう言ったが、ミアは首を振った。iPhoneのスクリーンが、そろそろ次の授業が始まる時刻を示していたからだ。^(注4)ソーシャル・ワーカーやNHSが家に介入してきているときに、遅刻をして悪い記録を残すことは避けたかった。

「なんかね、私は前からラップとか好きじゃなくて、何クールぶってんの、この人たち、としか思えなかったんだけど。この人はい

なっと思って」

校舎に向かって歩き始めたミアを追いかけてながらレイラが言った。

「私さ、ダンスを踊ったり、音楽を聴いたりしていると、^①ああ、これだ、って感じる瞬間が訪れるときがある。何が『これ』なのか、『これ』が何を意味するのかわからないけど。でも、ああこれ、ようやくこれに会えたっていう瞬間。奇妙だよ。テンペストのラップにもそれがある」

「……」

「『これ』って何なんだろう」

「……それはたぶん、『ここ』とは違う世界を指しているんじゃないかな」

「え？」

「たぶん、『これだ』って感じる瞬間だけ、私たちは、その違う世界に行ってるんじゃないかな」

「……違う世界って、それ、どこのこと？」

「わからない。わからないけど、それはここではない世界で、自分が本来いるべき場所っていうか、行ったこともないのになぜか知っている場所……」

ミアはそう答えて口ごもった。

たぶん、その知らないのに知っている場所に一瞬だけ連れていかれるから、まるで失われた場所を思い出すように「ああ、これだ」と直感するんじゃないだろうか。

さっきの動画を見て、ミアは確かにそういう気分になった。あのラッパーの言葉は、ミアをその場所に連れていったのだ。だから目に

温かい水があふれてきたのだろう。

言葉には、そういう力がある。

私も私の現実を、誰にも言えない本当のことを、テンペストのラップみたいに誰かの物語として語ってみたい。ミアは強くそう思った。

翌日、最後の授業を終えていつものようにロッカーから荷物を出し、くるっとウィルが後ろを振り返ると、いきなり目の前にミアが立っていた。

「うわっ、ミア。ワッツアップ？」

ミアは破ったレポート用紙の束をウィルに差し出し、②ちよつと怖いぐらいの鋭い目をして言った。

「読んでくれる？ 私のリリース」

「え？」

「テンペストのラップの動画を見たら書きたくなって、X書いた」

ただならぬ真剣さに⑥気圧けおされてウィルは紙の束を受け取った。それは、先日、ミアに渡したテンペストのリリースに負けないぐらい、分厚かった。

「これ、全部、書いたの？」

「前に書きかけたやつもいくつかあって、覚えていたのもあるから、ついでに入れといた」

「……すごい、こんなにリリースがあるなんて」

ウィルは瞳を輝かせてばらばら紙をめくっている。

「ここで読むのはやめてくれる？」

強い口調でミアが言ったので、ウィルが顔を上げた。

「いや、……なんか恥ずかしいから、いま読むのはやめて」

ミアの顔からさつきまでの怖さがなくなり、心なしかうつすら頬が赤くなっている。それを見るとウィルのほうまでなぜかどぎまぎして、思わずリリックの束を落としそうになった。

「Ⅲぞ。そう。じゃあいまはやめとく」

「じゃ……」

ミアはそう言ってくるりと背を向け、廊下の反対側で待っていたレイラのほうに近づき、二人は並んで校舎の出口に向かって歩き始めた。

ウィルはリリックの束を握りしめ、しばし Y 立っていた。

いま起きたことがちよつと信じられなかった。ミアのほうからリリックを持ってくるなんて。それもこんなにたくさん……。

ふと、音楽部の部屋にこれを持っていつて読むと、誰かに見られそうだなと思った。それは非常にもったいない気がした。何がもったいないのかよくわからなかったが、これは③どうしても一人で読みたい。

ウィルはきよろきよろあたりを見回し、先生があたりにいないのを確かめてから、リュックの陰に隠すようにしてスマホを取り出し、キムにメッセージを送った。

「急用ができたので帰る。新しい曲のトラック、明日聴かせるから」

そしてウイルはミアに託された言葉の束をたいせつにリリックの中にしまい、いそいそと家に帰った。

自分の部屋に直行したウイルは、ミアが書いてきたリリックを **Z** 読んだ。そして④放心したように自室のベッドに横になって天井を見上げている。

どんな言葉もいまの気持ちには追いつかない気がした。

ミアがボールペンで書きつけてきたものは、ラッパの言葉というより、スポークン・ワード・アーティストの言葉みたいだった。短いストーリーになっているものや、ティーンしやんの女の子たちのお喋り、ニュース番組のアナウンサーが団地で起きた事件を淡々と語っているものもあつて文学的だった。

自分が渡したケイ・テンペストのリリックをミアが丁寧に読み込んだのは間違いない。だけど、⑤欲目かもしれないけど、これはそれ以上のものだと思った。

ミアは、すごい。

一番すごいのは、キムが書いてくるリリックのように、書いた本人と言葉がかけ離れていないことだ。キムはラッパを演じるための言葉を書いてくるが、ミアは自分自身の言葉で書く。どれも一人称では書かれていないのに、⑥すべてが彼女の言葉だった。

だからなのだろう。読んでいると気持ちが強く揺さぶられる。読んでいるほうも無傷ではられないような、そんな言葉たち。

ウイルは、はあ、とため息をついた。

女の子のことを考えるときは、もっとワクワクして楽しくなるものだと思っていた。少なくとも、これまではずっとそうだった。でも、ミアのことを考えると、ウイルはせつないような悲しい気分になってくる。まるで厳しい冬の海の色をしたミアの瞳がそのまま心に映ってしまったみたいに。

わわ、何を感じ傷的になっっているんだ、と思ひながらウィルはベッドから起き上がり、PCの前に座った。そして机の上に転がっていたヘッドフォンを装着し、ミアのリリックをラップにするためのドラムビートを考え始めた。

(ブレイディみかこ『両手にトカレフ』より。出題の都合上、本文中に一部変更した箇所がある)

(注1) ノンバイナリー——自身の性自認・性表現に「男性」「女性」といった枠組みをあてはめようとしないセクシュアリティ。

(注2) カムアウト——カミングアウト。公表すること。

(注3) ボーストしている——見せつけている。

(注4) ソーシャル・ワーカーやNHS——ソーシャル・ワーカーは社会福祉の相談員、NHSは国民保険サービス。ミアは、彼らの介入で家族、特に弟と引き離されることを恐れている。

問1 傍線部②の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ② 茶番
- ア 取り返しのつかない最悪の事態
- イ あきれるほどばかげた振る舞い
- ウ 誰かの筋書き通りの結果
- エ 結末が見えている下手な芝居
- オ わざとらしい作り笑い

問2 傍線部⑥の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

⑥ 気圧されて

- ア たじろいで
イ おじけづいて
ウ うろたえて
エ 不安になつて
オ 緊張して

問3 傍線部⑦の本文中における意味として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

⑦ 欲目

- ア 自分に都合のいい解釈
イ 身内びいきの好意的な見方
ウ ごく客観的な判断
エ 根拠のない過大評価
オ 自らの発見に価値をおく傾向

問4 空欄 X・Y・Zに入る表現の組み合わせとして適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア	X	しづしづ	Y	啞然と あぜん	Z	早々に
イ	X	すぐに	Y	悄然と しやうぜん	Z	必死で
ウ	X	ようやく	Y	凝然と	Z	上の空で
エ	X	自然と	Y	敢然と	Z	熱心に
オ	X	一気に	Y	茫然と ぼうぜん	Z	夢中で

問5 傍線部①「ああ、これだ、つて感じる瞬間」とあるが、これをミアはどのような「瞬間」だととらえたのか。その説明として適当でないものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア 来た覚えはないのに既視感があり、安心できる場所についたと思える瞬間。
- イ 何かはわからないが、漠然と求めているものによりやく出会えたと思える瞬間。
- ウ 確かな記憶はなくても魂が覚えていた、失われていた場所がイメージできたと思える瞬間。
- エ 現実の世界だけではなく、自分の心が属している別の世界が存在すると実感できる瞬間。
- オ 自分の本来の居場所だと直感的に信じられる場所に降り立ったと思える瞬間。

問6 傍線部②「ちよつと怖いぐらいの鋭い目をして」とあるが、この時のミアの様子の説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 前々から頼まれていたリリースをようやく書き上げてウィルに渡すことができたが、ウィルがどんな反応を示すのかが心配で血の気が引いたような顔をしている。

イ 全身全霊をかけて書き上げたリリースではあるが、テンペストのように人を感動させる作品になっている自信はなく、恥ずかしさをこらえて虚勢を張っている。

ウ テンペストの動画に触発されて、誰にも言えない自分の現実を言葉にしようとしていた前日の切実な気分が抜けきらないまま、捨て身の覚悟でウィルと向き合っている。

エ 分厚い紙の束になるほどのリリースを一晩で書き上げて疲れきっているものの、自分のすべてを込めた自信作を少しでも早くウィルに見てほしいと意気込んでいる。

オ テンペストのラップの動画を見た時の感動がさめやらぬまま、勢いで大量のリリースをしたためたことについて、ウィルから冷やかされることを警戒している。

問7 傍線部③「どうしても一人で読みたい」とあるが、ウィルはなぜこのように思ったと考えられるか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 自分が目の前で読むことすらいやがっていたのに、他人のいる所で読んで誰かに見られるのは、ミアがきつと気を悪くするだろうと氣遣ったから。

イ 音楽部の部室に持って行ってミアのことを知らない人間にまで興味を持たれてしまうことがいやで、このリリックは自分だけの秘密にしておきたかったから。

ウ せっかくミアが持ってきてくれたリリックなので、他の人もいてざわざわした場所で読むと氣が散りそうで、自室で一人静かに集中して読みたいと思ったから。

エ 断り続けていたミアのリリックの多さと、渡してきた時のミアの様子から、一人で真剣に読むべきで、その時感じるであろうことも初めに自分で味わいたいと思ったから。

オ ぱらぱらと紙をめくって目にした限りでもミアの渾身こんしんの作品であることがわかり、本人の承諾なく勝手に自分以外の人に見せてはいけないような氣がしたから。

問 8 傍線部④「放心したように自室のベッドに横になって天井を見上げている」とあるが、この時のウィルの様子の説明として適当でないものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア ミアのリックの持つ、読む者の心をとらえて離さず、胸を強く揺さぶる言葉の力にすっかり打ちのめされてしまい、魂が抜けたようにぼんやりしている。

イ 自分自身の飾らない言葉であるミアのリックを読むと、ラッパーを演じようとするキムの言葉との差異が際立ち、本物の言葉の持つ力を思い知らされている。

ウ 心に突き刺さるミアのリックの言葉たちに平静ではいられなくなるとともに、中学生でありながらそれほど人の心を打つ言葉を紡げるミアに羨望を覚えている。

エ ミアのリックは、ラップの域を超えて文学的で、もはや音楽の一部というより言葉が主役の芸術ですらあり、ケイ・テンペストをしのご才能を持っていると感動している。

オ 読んでいるほうも無傷ではいられないほどに心をえぐる言葉たちに触れて、衝撃を受けるとともに、そうしたリックを書くミアを痛ましく思う気持ちも深まっている。

問9 傍線部⑤「すべてが彼女の言葉だった」とあるが、それはどういうことか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えな

さい。

ア キムが書いてくるリリックのようなラップを演じるためのものではないため、ラップのリリックとしては異色だったということ。

イ ウイルが渡したケイ・テンペストのリリックを丁寧に読み込みながらも、模倣ではないオリジナルの歌詞だったということ。

ウ どんな形式であっても、また語り手が異なっているにもかかわらず、書いた人物が同じだとわかるようなリリックだったということ。

エ これまで自分のことはあえて語ろうとしなかったミアが、初めてありのままの自分の姿を語ろうとしていたということ。

オ ミアのリリックは、自分のこととして書いていないのに、書いている本人だけが語れる真情が言葉に宿っていたということ。

問10 本文の表現についての説明として**適当でない**ものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 波線部ⅰ「ミアの瞳に温かい水がたまってきた」は、テンペストの動画によって、知らないのに知っている、ここではない世界に連れていってもらえた感動でミアが涙する様子を表現している。

イ 波線部ⅱ「こことは違う世界」には、中学生ながら家族を支えるミアの、日々直面している厳しい生活環境の中で、現実ではないどこか他の世界に自分の本当の居場所があると強く信じる気持ちが込められている。

ウ 波線部ⅲ「そ、そう。じゃあいまはやめとく」は、先ほどまでの険しい表情から一転して、目の前で読まれることを恥ずかしがる女の子の姿を見て、うろたえあわてるウィルの動揺が表現されている。

エ 波線部ⅳ「ミアに託された言葉の束をたいせつにリュックの中にしまい」は、単なるラップのリリックとしてではなく、ミアの真剣な思いの詰まったものとして受け取り、周囲の好奇の目から守ろうとするウィルの誠実さが表現されている。

オ 波線部ⅴ「まるで厳しい冬の海の色をしたミアの瞳がそのまま心に映ってしまったみたいに。」は、ミアの厳しい現実がリリックに投影されていることを感じ取ったウィルが心を痛めていることを表現している。

第二問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

蒸気機関の発明により蒸気船や鉄道が登場し、20世紀には自動車や飛行機も普及して、一気に交通網・流通網が整備された。今では考えられないことだが、産業革命以前は商人などの例外を除くほとんどの人類が、生まれた土地から一步も出ずに死んでいったのである。それがたった200年で人やモノが世界中を巡るようになり、都市化が進み、工場での大規模製造が進んだ。

産業革命による世界の発展の背景にあったのは、物理学をはじめとした科学技術の進化であり、計算によってモノの移動をシミュレートし自動化や効率化が飛躍的に進んだことにある。

①モノの移動を計算することが、人間の生活を豊かにしてきたのである。産業革命から現代に至るまでの200年間を一言で称するならこの言葉がふさわしいと思う。

「モビリティの時代」だ。

産業革命から現在までの200年を「モビリティの時代」と名付けた。

では、200年後の未来から見た現在はどうな時代だろう。

200年後の未来から見れば、ご存じの通り現代は情報革命の真^まつ只^{ただなか}中だ。インターネット、特にウェブの登場により、人・モノだけでなく「情報」が世界中を巡るようになった。さらにスマートフォンが登場して、人類は四六時中インターネットにつながるようになっていく。

これから200年かけてこの世界が発展していくとしたら、今の時代が世界に与えた最も大きなインパクトのある変化とは何だろう。いったい何の時代と呼ぶのがふさわしいだろうか。

アクセシビリティの時代？（どんなモノ・情報も手に入るようになる）

コネクティビティの時代？（誰とでもつながれるようになる）

コグニティビティの時代？（あらゆるシステムが認知力を持つようになる）

どれももつともらしく聞こえるが、はたしてこれらが「モビリティ」にヒッ^②デキ^③するレベルで、人類に変革をもたらすと言えるだろうか。どれも産業に破壊的な^④イノベーションをもたらしているが、今後200年にわたって起こる人類の進化を表すファクターとしては、一側面しか表せていない気がする。これからの時代を表現するには、より抽象度の高い概念が必要だ。

僕の考えはこうである。最もインパクトある変化とは、「人やモノ」を動かすよりも「情報」を動かすほうが合理的だとみなが気づき始め、人類が「物理的な束縛から解放されたれ始めてきた」ことなのではないか。

そしてさらに、物理的束縛から解放されることで、「より実質的・本質的（＝バーチャル）な価値を意識することができるようになった」ことこそ、今後200年にわたって人類にとって最も重要で、最も影響の大きい変化なのではないだろうか（ちなみに「バーチャル（virtual）」という言葉は「仮想」と訳すのは間違いだ。本物ではないが実質的・本質的には本物と考えて良い、という意味合いで「実質的」や「本質的」と訳すのが正しい）。

あらゆる変化の中でも、人類がバーチャルな価値を意識することによって生じる世界へのインパクトは最も大きなものになる。モビリティとは比べ物にならないはずだ。

だからこそ今後200年を一言で表すとしたら。

②「バーチャリティの時代」が最もふさわしいというのが、僕の考えだ。

過去200年間、モビリティの時代は人類のエネルギー消費量が爆発的に増えた時代だった。(Ⅰ)人口の増加に対して明らかにエネルギー消費量の増加スピードは急激だったということも注意しておくべきだろう。

(Ⅱ)

そこで、モビリティの時代を象徴する概念としての「アトム」が浮かび上がってくる(ちなみにアトムという言葉は人やモノなど物質のことを指す言葉として扱い、光や情報といった原子で構成されていない概念の対義語的に用いる)。

産業革命を担った蒸気機関を思い出してほしい。燃料を燃やすことより得られた熱エネルギーは、熱力学を駆使して運動エネルギーへと変えられ、人やモノなどの物質を移動させるのに使われた。ばらばらだったモノたちを1ヶ所に集積させ、あらゆる単純作業を自動化させたことが、人類の生産性の爆発的な向上につながったのだ。

さらに石炭や石油・天然ガスから取り出したエネルギーは電力として使われ、さらに人類は原子核から莫大(ばくだい)なエネルギーを取り出すようにさえた。もちろん、その結果生まれたのが原子力発電だ。(Ⅲ)

こうして俯瞰(ふかん)して見ると、結局のところモビリティの時代においては、エネルギーのほとんどがアトムを動かすために使われたことがわかる。モビリティの時代はアトムが主役だったのである。(Ⅳ)

一方、これからの時代、つまりバーチャリティの時代の主役はアトムからビットへと交代する。ビットとはすなわちデータだ。エネルギーは人類の生産性を向上させるために使われてきた。モビリティの時代からバーチャリティの時代へと移り変わり、それにとまなつてエネルギーが働きかける対象はアトムではなくデータとなる。データに働きかけたほうが、桁違いの生産性向上につながるからだ。

(Ⅴ)モノや人を動かすために使っていたエネルギーは、コンピュータのCPUやGPUなどのプロセッサを動かすため、つまり計算するために使われるようになっていく。実際、様々なものにチップが埋め込まれ、それらが電力を消費し計算することで人間の生

活はより便利なものになっている。

最先端技術分野ではすでにその傾向が^⑥ケンチョだ。AI、^(注2)ブロックチェーン、VR／AR……いずれもこれから人類の生活を大きく変えていくポテンシャルを持った技術だ。プロセッサが電力を食べることで担われていることも共通している。計算により大量の電気を使っているものの、これらの技術が進歩、普及することでアトムを動かすことが必要なくなっていく。

エネルギーを消費しアトムを動かす営みを、コンピュータでの計算が取って代わる。飛躍的に生産性が上がり、人やモノの移動は最小限で済むようになるだろう。これはモビリティの時代に、それ以前は人力で行っていたことを蒸気機関などの機械で自動化し生産性を改善したのと^③完全に相似形だ。

これからの2000年は X が本当に重要なファクターであると認識できているかどうか、バーチャリティの時代を生き抜く上で最重要になってくると僕は考えている。

「モビリティの時代」に対抗する言葉として「バーチャリティの時代」というワードを提唱したが、バーチャリティの時代に人類がめざす究極の生活スタイルこそ、メタバースである。

メタバースは「^(注3)ヒューマンセントリック」がキーワードとなる。人間にとってバーチャル、すなわち実質的な価値だけを残して「圧縮」する時代なのだ。

今はモビリティの時代からバーチャリティの時代に移行している過渡期だ。コロナ禍で改めて実感した方も多いと思うが、この2000年、人やモノはかつてないほど激しく移動していた。このままモビリティの時代が続けば、やがて移動のためのエネルギー資源が尽きることは必然だ。最低限のモビリティで済むように合理性を追求する必要があるはずである。

加えて、地球の環境を守ることが求められている。激しいモノの移動を支えた化石燃料型の経済によって、今、地球は壊れかけてい

る。われわれが住んでいる地球を持続可能、サステイナブルなものにするべく、世界が向かっているコンセンサスは極めてシンプルだ。目標は「産業革命前と比べ、平均気温の上昇を1・5度以内に抑える」ことであり、そのために2050年までに「温室効果ガスの排出を実質ゼロにする」ことだ。

お金の流れも変わりつつある。サステイナブルな事業や、省エネルギーの事業に投資マネーが集まっている。逆に炭素を排出するようなビジネスにはお金が集まらなくなりつつある。ここ数年で、気候対策型の経済に一気にシフトしたと言って良い。

モビリティの時代の象徴とも言える自動車業界においても脱内燃機関が叫ばれ、電気自動車が脚光を浴びている。内燃機関を^⑥ヨウゴしていたトヨタが^⑦掌を返し電気自動車を一気に16台も発表したのは2021年12月、つい最近のことだ。しかし^④僕に言わせれば、電気自動車はまだまだサステイナブルでない。

人間がエネルギーを使わないようにし、炭素排出量を最小限にする一番の方法は何か。

もちろん、「移動しない」ことである。メタバースが実現すれば、人やモノが移動しなくなり、モビリティが最小限になる。モビリティ時代の終焉^⑧だ。

実質的な価値だけを抽出し、無駄を省く。地球環境のサステイナビリティが人類最大の課題になった時代だからこそ、メタバースの実現が求められている。

（加藤直人『メタバース さよならアトムの時代』より。出題の都合上、本文中に一部省略・変更した箇所がある）

（注1）イノベーション——革新的な発想や技術によって新たな価値を生み出すこと。

（注2）ブロックチェーン、VR／AR——ブロックチェーンは、仮想通貨の取引記録をネット上で管理するために生まれた概念で、暗号技

術を用いてデータをブロック単位で管理し、鎖のように連結させて、多数の参加者に同一のデータを保持させることで不正な改ざんを防止すること。VRは「Virtual Reality」（仮想現実）の略。ARは「Augmented Reality」（拡張現実）の略。VRは仮想世界を現実のように見せるものだが、ARは実際の風景にバーチャルの情報を重ね合わせて現実を拡張する技術である。

（注3）ヒューマンセントリック——人間主体という意味。特に、情報通信技術において、人間がシステムに合わせるのではなく、インフラ・サービスなどを、人間を中心に設計することを指す。

問 11 傍線部①に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

① ヒツテキ

- | | |
|---|----------------|
| ア | 病巣をテキシユツする手術 |
| イ | カイテキな生活を享受する |
| ウ | 病院でテンテキを受ける |
| エ | ガイテキに備えて防護壁を作る |
| オ | タンテキな説明を心がける |

問 12 傍線部②に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

② ケンチヨ

- | | |
|---|----------------|
| ア | 厄介な問題がケンザイカした |
| イ | ケンメイな判断だと支持される |
| ウ | 大国にヒケンする経済力 |
| エ | ケンジツな方針を示す |
| オ | ケンキヨな人柄で好感が持てる |

問 13 傍線部㉔に相当する漢字を含むものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

㉔ ヨウゴ

- | | |
|---|-----------------|
| ア | ヨウエンな魅力を振りまく |
| イ | 試合に勝って気分がコウヨウする |
| ウ | 新人候補をヨウリツする |
| エ | ボンヨウな成績しか残せなかった |
| オ | 海辺の別荘でセイヨウする |

問 14 次の一文は、本文中の（Ⅰ）～（Ⅴ）のうちのどの部分に付け加えることができるか。適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ところで、これだけのエネルギーを人類はいったい何に消費したのだろう。

- ア（Ⅰ） イ（Ⅱ） ウ（Ⅲ） エ（Ⅳ） オ（Ⅴ）

問15 傍線部①「モノの移動を計算することが、人間の生活を豊かにしてきた」とあるが、どういうことか。その説明として適当なものを、ア

イ オの中から選んで答えなさい。

ア 産業革命から現在までの200年は工業化の進展で人類のエネルギー消費量が爆発的に増えた時代で、エネルギー利用の範囲が広がるとともに産業がさらに高度化したということ。

イ ほとんどの人類が生まれた土地から一歩も出ることがなかった時代から、蒸気船、鉄道、自動車、飛行機の普及によって、人間の活動範囲が飛躍的に広がったということ。

ウ 人やモノを移動させるエネルギーが石炭から石油、原子力に変わると同時に、科学技術の進化によって自動化や効率化が進み、人類がエネルギーに依存する度合いが強まったということ。

エ 農村地帯で暮らしていた人々が都市部に移って工場生産に従事する仕事に就くようになったことで、産業構造をはじめとして人々の生活が大きく変化したということ。

オ 人やモノを移動させるための交通網や流通網を発達させ、人とモノを拠点に集めて作業の効率化を図ったことで、生産性が爆発的に向上し、世界が大きく発展したということ。

問 16 傍線部②『バーチャリティの時代』が最もふさわしいというのが、僕の考えだ。」とあるが、筆者がどのように考える理由の説明として

適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア 熱エネルギーに支えられたモビリティの時代を経て、モノより情報に価値があると気づいた人類は、電気エネルギーが作り出すバーチャルな現実を重視するようになるから。

イ 人とモノだけでなく「情報」が世界中を巡るようになったが、今後はさらに物理的な束縛からも解放されて、メタバースを中心とした生活の実現が求められるから。

ウ 文明の発達と引き換えに壊れかけた地球の現状に危機感を覚えた人類は、表面的な豊かさや効率よりも、より本質的・実質的な価値を大切にしようとするようになるから。

エ インターネットの発達で世界中の誰とでもつながれるようになった人類は、空間的距離という物理的障壁を越えて、インターネット上の空間で交流するようになるから。

オ モビリティの時代に地球の資源を搾取しすぎたことを反省する人類は、地球をサステイナブルなものにするために、AIの判断に生活の多くを委ねることになるだろうから。

問17 傍線部③「完全に相似形だ」とあるが、どういうことか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

ア モビリティの時代に、エネルギーのほとんどがアトムを動かすために使われたことと、バーチャリティの時代には、エネルギーはコンピュータを動かすために使われることが似ているということ。

イ モビリティの時代に、それ以前は人力で行っていたことを蒸気機関などの機械で自動化したことと、バーチャリティの時代には、人力で行っていたことをAIが行うことが似ているということ。

ウ モビリティの時代に、人やモノなど物質であるアトムが主役で産業を発達させたことと、バーチャリティの時代には、データが主役で情報化社会を動かしているという構造が同じであるということ。

エ モビリティの時代に、人力での作業を機械が代行するようになって生産性が上がったことと、バーチャリティの時代には、コンピュータを動かして生産性を向上させるという構図が同じであるということ。

オ モビリティの時代に、石炭や石油から取り出したエネルギーが電力として使われたことと、バーチャリティの時代には、原子核からエネルギーを取り出すようになったことが同じであるということ。

問 18 空欄 X に入る表現として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア 「コンピュータを動かす電力」
- イ 「人やモノの移動は不要であること」
- ウ 「データ」および「計算可能であること」
- エ 「生産性」ではなく「ポテンシャル」
- オ 「モビリティ」よりも「サステイナブル」

問 19 傍線部④「僕に言わせれば、電気自動車はまだサステイナブルでない」とあるが、筆者はなぜそのように言うのか。その説明として適当なものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア 確かに電気自動車は走行時に二酸化炭素を排出しないが、製造時や廃棄時には二酸化炭素を排出すると考えるから。
- イ 発電システムを化石燃料に依存している国では、実際の二酸化炭素排出量は電気自動車のほうが多いと考えるから。
- ウ 電気自動車は走行時に二酸化炭素を排出しないというメリットはあるものの、充電するために時間と経費がかかると考えるから。
- エ 炭素排出量を最小限にするには、人やモノが移動しないことのほうが電気自動車で移動することよりも有効だと考えるから。
- オ 走行時に二酸化炭素を排出しない電気自動車ではあるが、バッテリー切れの問題などが不安視されていると考えるから。

問20 本文の内容に合致しないものを、ア～オの中から選んで答えなさい。

- ア 蒸気機関の発明に始まる産業革命は、エネルギーを人やモノなどの物質を移動することに向け、人々の生活スタイルを一変させた。
- イ バーチャリテイの時代とは、仮想世界が中心になる時代ではなく、人々が実質的・本質的な価値を重視する時代である。
- ウ エネルギー消費は地球を疲弊させ、モビリティ時代を支えた化石燃料も枯渇目前のため、早々に移動しない生活を実現させるべきだ。
- エ モビリティ時代の終焉に近い今、サステイナブルで、かつ人間にとっての実質的な価値を追求する人間中心の技術が希求される。
- オ ここ数年で経済は気候対策型のものが主流となり、世界は地球を持続可能なものにするという目標に向かって努力しようとしている。

第三問 次の設問に答えなさい。

問 21 次の文の傍線部 of 故事成語の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

今こそ反対勢力に一矢報いる時だと判断した彼は、仲間に檄^{げき}を飛ばした。

ア 人々に奮起を促すために演説をした。

イ 争いに勝つための戦略を授けた。

ウ 今後の方針や計画を具体的に伝えた。

エ 人々を呼び集めて一同に直接活を入れた。

オ 自分の考えを人々に知らせて同意を求めた。

問22 次の文の傍線部の四字熟語の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

彼はリスペクトする文豪の作品を換骨奪胎した小説を発表した。

- ア 既存の作品に手を加えたものを、別の作品に見せかけること。
- イ 古い作品の一部を盗用して自分の作品として発表すること。
- ウ 先人の作品の優れた点を取り入れて自分の作品を作り出すこと。
- エ 他人の作品を無断で模倣して自分が作者のように装うこと。
- オ 尊敬する作家に影響を受け、それとよく似た作品を作ること。

問 23 次の文の空欄に当てはまる語を、ア～オの中から選んで答えなさい。

人間の脳の仕組みを再現し、大量のデータをもとにコンピュータが自動で特徴を学習していく手法である
[]は、停滞し
ていたA I技術開発の起爆剤となった。

ア データサイエンス

イ ハルシネーション

ウ ディープラーニング

エ 生成A I

オ アノテーション

問 24 次の文の空欄に当てはまる語を、ア～オの中から選んで答えなさい。

デジタル端末の普及によって、一方的な情報提供だけでなくユーザー自身にもアクションを起こさせる双方向的な
ンテンツが注目されるようになった。

コ

ア パッシブ

イ インタラクティブ

ウ タイアップ

エ サプライヤー

オ アクティビティ

問 25 次の文の傍線部の語句の正しい意味はどれか、ア～オの中から選んで答えなさい。

新型コロナウイルス感染症の蔓延^{まんえん}に伴いオンライン決済やテレワークのニーズが高まったことや、SDGsへの関心の高まりを受け、デジタル・トランスフォーメーションにより業種の枠を超えて新しい価値を創生することが求められている。

ア 情報や機能を共有する場を設けて個人のライフスタイルを充実させていくこと。

イ 商品に関するすべてのデータを保存し、一元的に管理できるようにすること。

ウ ソフトウェアやサービスを活用して、データをビジネス上の意思決定につなげること。

エ ビッグデータやデジタル技術を活用して、生活をよりよいものに変革すること。

オ 顧客との接点を通じて、適切なタイミングで最適な商品や体験を提供すること。

